

下野市公民館運営審議会 議事録 (要旨)

審議会名等 令和6年度第2回公民館運営審議会
日 時 令和6年7月30日(火) 午後1時30分～3時15分
場 所 石橋公民館 会議室4
委 員 出席者 中川 賢一、板垣 博史、菊池 高夫、加瀬 裕美、
青木 正徳、藤沼 清貴、長 美智子、市村 栄美子、
北村 優子、小林 溶子、小林 直子、鈴木 祐孝、
田中 志保、早瀬 純則
欠席者 山中 幸子

教育委員会 教育長 石崎 雅也
生涯学習文化課長 野口 修一
石橋公民館長 山内 隆匡
国分寺公民館長 近藤 善昭
南河内公民館長 齋藤 光利
南河内東公民館長 大島 浩司
生涯学習推進グループ 課長補佐 猪瀬 貴之

公開・非公開の別 (公 開) ・ 一部公開 ・ 非公開)

傍聴人 0人

報道機関 0人

議事録(要旨) 作成年月日 令和5年8月 日

- 1 開 会 南河内東公民館長 大島
- 2 委嘱状交付 加瀬 裕美 委員
- 3 委員長あいさつ 中川 賢一
- 4 教育長あいさつ 石崎 雅也
- 5 議 事
(1) 令和5年度下野市公民館評価報告書について
(2) 第1回下野市公民館運営審議会会議録について
- 6 その他
- 7 閉会

5. 議事

(1) 令和5年度下野市公民館評価報告書について

中川委員長	議事(1)「令和5年度下野市公民館評価報告書について」審議する。
事務局	事務局からの説明を求める。
中川委員長 鈴木委員	委員から事前に提出された意見に基づき、訂正し、差し替えた資料により「令和5年度下野市公民館評価報告書」について説明。
事務局	事務局からの説明にご質問がある方はいるか。
中川委員長	来年度、公民館振興計画の改定が予定されている。今年度、公民館運営審議会が5回計画されているが、来年度は5回程度で足りるのか。
全委員	公民館振興計画は、教育委員会から社会教育委員会に諮問され、社会教育委員会が計画立案するが、公民館運営審議会がそのたたき台をつくる。事務局で素案を作成し、公民館運営審議会と協議を行い、皆様の意見を伺いながら策定していく。5回を予定しているので、審議会の回数は増やさなくて済む。
	社会教育委員会議は上部組織であるが、机上の空論とならないよう、公民館を熟知している公民館運営審議会の委員の皆様にご意見を伺っていただくことが大切である。ほかに質問はあるか。
	質問がないようなので、この報告書のとおり提出してよろしいか。異議なし。

(2) その他 第1回公民館運営審議会会議録について

中川委員長	議事(2)「その他 第1回公民館運営審議会会議録について」審議する。
事務局	事務局の説明を求める。
中川委員長	前回会議の議事録について説明。
事務局	前回会議で、エールの配布について議論となり、今後、いろいろな方法を検討していくこととなった。これについて、事務局の説明を求める。
中川委員長	エールは、公民館利用につなげる手段として毎年発行し、多くの方々に見ていただけるよう、自治会配布を行っている。7月10日に開催された生涯学習推進協議会においても意見をいただいたところであるが、公民館運営審議会の意見を尊重することとなり、本日改めて皆様から意見をいただきたい。
田中委員	現在、事務局で考えている案として、 1. これまで同様、全戸配布を行う。 2. 冊子では受け取らない世帯もあることから、概要版を広報紙に盛り込み、配布する。概要版に興味を持った方が、公民館、図書館、コンビニ等でエールを受け取る。
中川委員長	の2案である。皆様の意見を伺いたい。
青木委員	高根沢町が自治会加入率が40%弱であると聞いた。どのような工夫をしているか情報はるか、機会があったら聞いてほしい。
中川委員長	下野市はこのような会議で、どのようにしたら冊子を受け取ってもらえるか議論しており、意識が高い。
青木委員	世の中はデジタル化が進んでいるが、冊子に何度も目を通しながら頭の中に記憶させていく、アナログな部分も大切ではないか。皆さんの意見を伺いたい。
青木委員	書くという作業は脳に対していい影響を与える。そのような部分を残しつつ、デジタルを活用していくべきではないか。

藤沼委員	自治会では高齢者が多く、IT機器を使いこなせていない。どのような方法があるか皆様の意見を参考に、現場でどう活かせるか考えたい。
加瀬委員	紙は紙で残すことが必要である。自治会の加入率を上げることが大きな課題である。
北村委員	エールは全員に届いておらずロスがありもったいないと思うが、興味がある人だけ取りに行くことは参加率の低下につながるの、自治会配布がベストではないが、ベターである。
田中委員	人の流れが多い駅にエールを置いてほしい。
早瀬委員	概要版を作るのはいいことだと思う。若い人が集まるコンビニなどに置けば、自治会などに入っていない人もアクセスできる。また、現在の紙ベースでの対応を改善する必要がある。
小林直子委員	今年エールがスリム化されたが、これ以上コンパクトにしないでほしい。
小林溶子委員	エールは従来どおり発行し、それにプラスして概要版を広報紙に掲載するということではよろしいか。
野口課長	現在は紙媒体を必要としている方が多いことから、当面はエールと概要版を併用したい。将来的には別な方法も検討し、紙媒体であるエールを減らしていきたいと考えている。
小林溶子委員	紙媒体であるとそこにメモができる利点があり、便利である。エールがスリム化されたが、まちづくり講座や親子などの家庭教育講座の内容が分かりづらい。
市村委員	エールについて、配布することの目的、誰を対象にするのかをもう一度考えるとよいのではないか。現在は、IT、デジタルの時代といわれているが、過渡期なのではないかと思う。
長委員	今は紙媒体が主だが、デジタルへの過渡期であり、比較的高齢の方にはまだ紙媒体が必要である。
菊地委員	他市の例もあるが、将来的にはニーズに応じて、紙媒体なのかデータなのかを選択できるようにするとよいのではないか。
鈴井委員	公民館が努力し、現在に至っていることを評価したい。いずれ否応なしにデジタル化となるので、それに対応していかなければならない。
板垣副委員長	広報紙に概要版を掲載することは、裾野を広げるということで意味があるので、是非お願いしたい。その上で、エールは継続してほしい。また、スリム化の方向の中で検討の余地はある。
中川委員長	エールを出して終わりではなく、タイムリーにチラシなどを配布し、最新の情報で参加者の意識が高まるよう、努力してほしい。いずれはおのずから方向性が出ると思う。概要版を広報紙に載せるということは大きな進歩である。
全委員	全委員から意見をいただいたが、概ね、現在のエールを継続し、概要版も整えながら進めていくという意見であったが、よろしいか。 異議なし。

6. その他

事務局	第3回審議会は10月下旬を予定している。 決定次第、通知する。
-----	------------------------------------

7. 閉会